

高知市の認知症施策の取組

～本人（認知症）の叶えたいことが実現できる笑顔いっぱいの高知へ～



高知市健康福祉部基幹型地域包括支援センター

高知市の概要

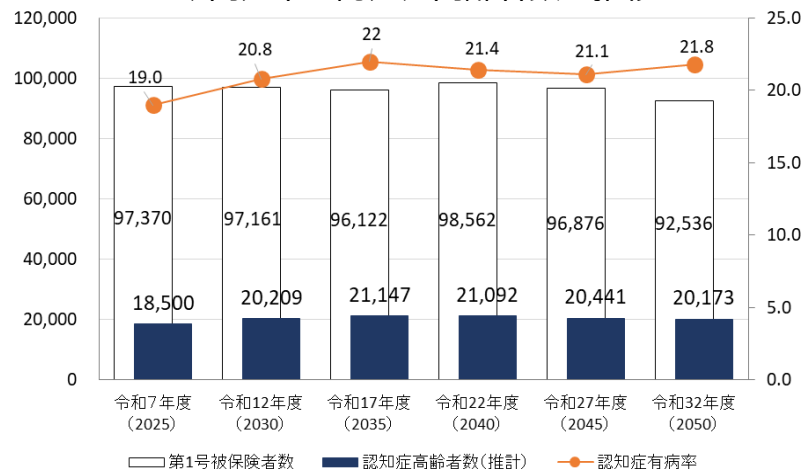
高知市は、海、山、川にもほどよく近く、都会と田舎、両方の魅力を持ったコンパクトシティです。

総人口 312,228人
高齢者人口 97,285人
高齢化率 31.2%
面積 309.00km²
日常生活圏域 14圏域
(令和7年1月1日時点)

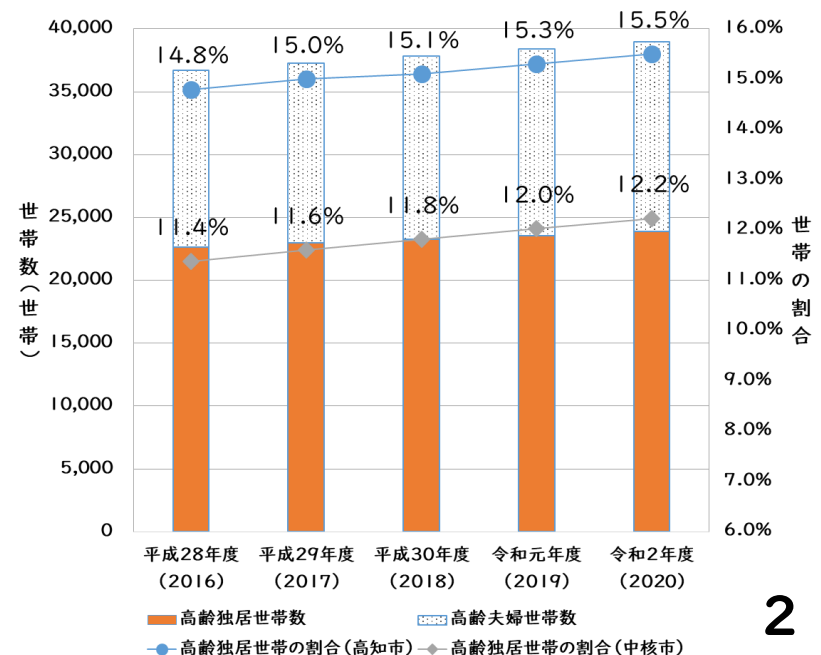


少子高齢化の進展に伴い、高知市の認知症高齢者数と高齢独居世帯の割合が増加しています。

◆高知市の認知症高齢者数の推移



◆高知市の世帯構成の推移



高知市の認知症支援体制

認知症地域支援推進員

地域包括支援センター兼務配置 14名

認知症初期集中支援チーム

地域包括支援センター兼務配置 14チーム

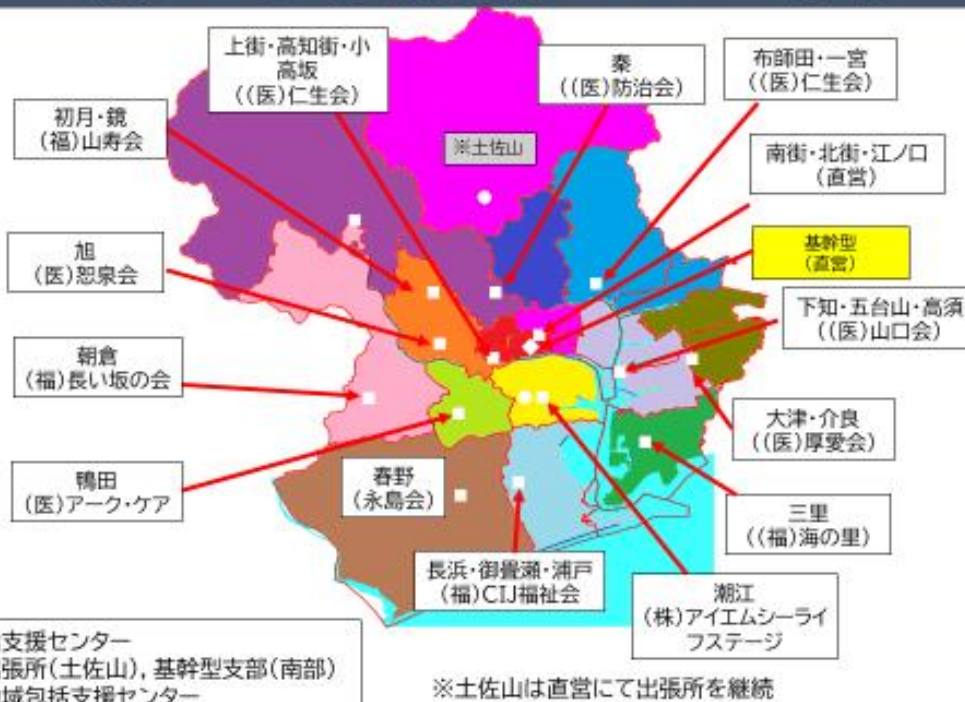
認知症カフェ

市内32か所

ミーティングセンター

市内1か所

現在の地域包括支援センターの体制



◆認知症初期集中支援チーム会議の様子



4圏域で各月1回開催

高知市の認知症施策推進計画

高知市は、第9期高知市高齢者保健福祉計画に認知症施策推進計画を内包する形で策定

認知症になっても安心して暮らし続けられる支援

1 認知症に対する理解促進

- ・ 認知症サポーター養成講座
- ・ 認知症サポーターステップアップ研修
- ・ 認知症ケアパスの普及促進
- ・ 認知症当事者による本人発信支援

2 認知症の人と家族の支援

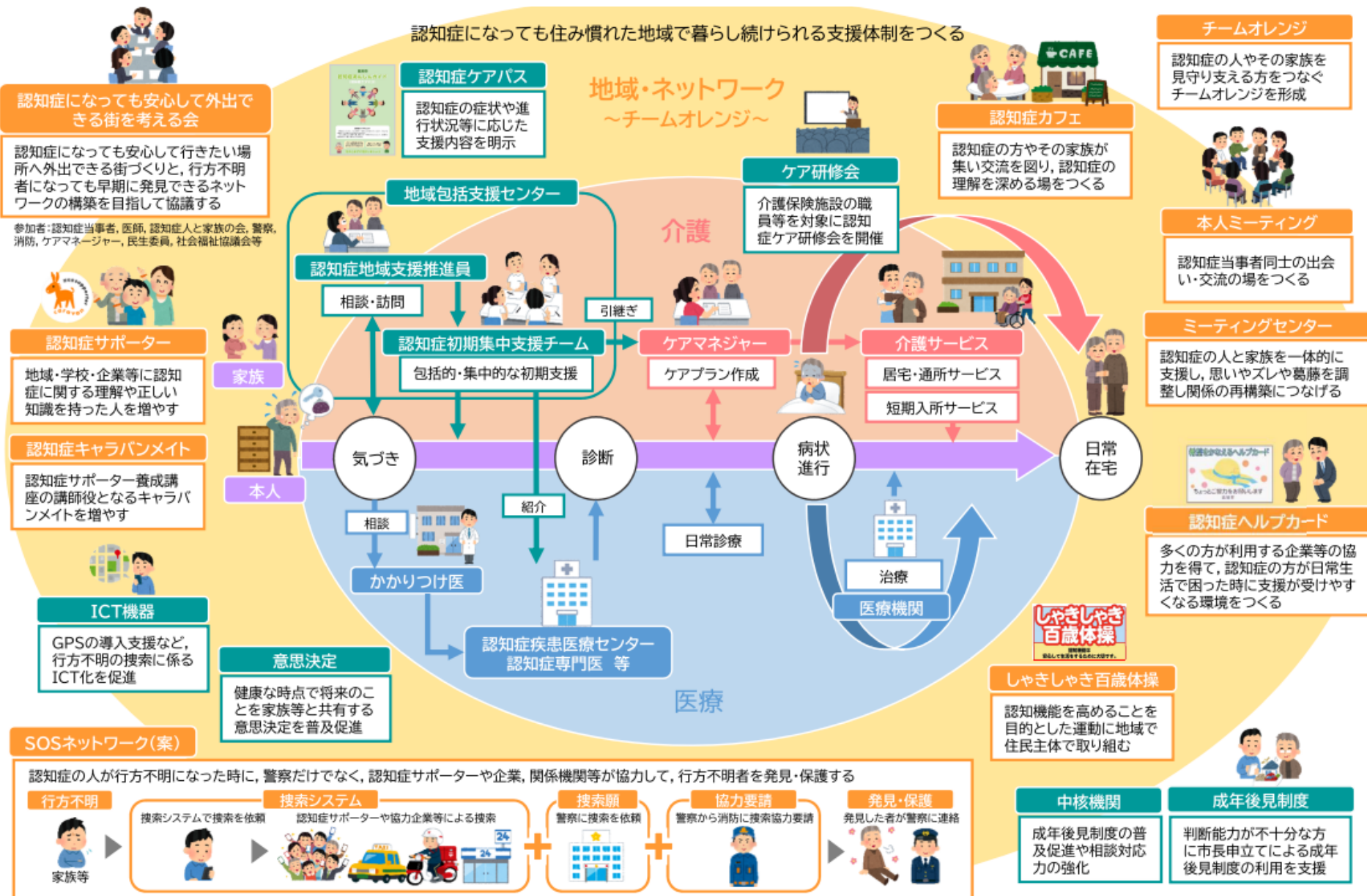
- ・ 認知症地域支援推進員の配置
- ・ 認知症初期集中支援の充実
- ・ 認知症初期集中チーム検討委員会の開催
- ・ 認知症の人と家族への一体的支援事業

3 認知症の人を支えるネットワークの拡充

- ・ 気軽に集い交流する場づくりの推進
- ・ チームオレンジの形成
- ・ 認知症の人や家族を支援する
- ・ SOSネットワークの体制の充実
- ・ 希望をかなえるヘルプカードの利用促進

4 若年性認知症の人への支援

高知市の認知症支援体制イメージ



高知市の認知症施策推進計画

高知市は、第9期高知市高齢者保健福祉計画に認知症施策推進計画を内包する形で策定。

認知症になっても安心して暮らし続けられる支援

1 認知症に対する理解促進

- ・ 認知症サポーター養成講座
- ・ 認知症サポーターステップアップ研修
- ・ 認知症ケアパスの普及促進
- ・ 認知症当事者による本人発信支援

2 認知症の人と家族の支援

- ・ 認知症地域支援推進員の配置
- ・ 認知症初期集中支援の充実
- ・ 認知症初期集中チーム検討委員会の開催
- ・ 認知症の人と家族への一体的支援事業

3 認知症の人を支えるネットワークの拡充

- ・ 気軽に集い交流する場づくりの推進
- ・ チームオレンジの形成
- ・ 認知症の人や家族を支援する
- ・ SOSネットワークの体制の充実
- ・ 希望をかなえるヘルプカードの利用促進

4 若年性認知症の人への支援

認知症に対する理解促進

- 認知症の本人やその家族に、高知市が開催する認知症サポーター養成講座や認知症カフェのミニ講和等に登壇・参加していただいた。
- 本人（認知症）が毎回参加することはできないため、認知症サポーター養成講座の最後に山中氏のメッセージ動画を観てもらった。



本人（認知症）メッセージ動画を活用した
認知症サポーター養成講座



山中しのぶさんよりメッセージ



本人（認知症）・家族が登壇



受講者の意見

- これまでの認知症に対するイメージが変わった
- 当事者意識が芽生えた

など

高知市の認知症施策推進計画

高知市は、第9期高知市高齢者保健福祉計画に認知症施策推進計画を内包する形で策定。

認知症になっても安心して暮らし続けられる支援

① 認知症に対する理解促進

- ・ 認知症サポーター養成講座
- ・ 認知症サポーターステップアップ研修
- ・ 認知症ケアパスの普及促進
- ・ 認知症当事者による本人発信支援

② 認知症の人と家族の支援

- ・ 認知症地域支援推進員の配置
- ・ 認知症初期集中支援の充実
- ・ 認知症初期集中チーム検討委員会の開催
- ・ 認知症の人と家族への一体的支援事業

③ 認知症の人を支えるネットワークの拡充

- ・ 気軽に集い交流する場づくりの推進
- ・ チームオレンジの形成
- ・ 認知症の人や家族を支援する
- ・ SOSネットワークの体制の充実
- ・ 希望をかなえるヘルプカードの利用促進

④ 若年性認知症の人への支援

認知症の人と家族の支援

ミーティングセンターKOCHI

- 令和5年10月に、山中氏・矢吹氏・若年性認知症支援コーディネーターと一緒に立ち上げ、認知症の人と家族を一体的に支援している。
- 現在は、10組程度が参加しており、認知症の本人やその家族と一緒に「叶えたいこと」や「やりたいこと」を話し合いながら、取り組んでいる。



参加者の様子

- 回数を重ねるごとに、認知症の本人やその家族の表情が明るくなり、たくさんの方にチャレンジできている。

高知市の認知症施策推進計画

高知市は、第9期高知市高齢者保健福祉計画に認知症施策推進計画を内包する形で策定。

認知症になっても安心して暮らし続けられる支援

① 認知症に対する理解促進

- ・ 認知症サポーター養成講座
- ・ 認知症サポーターステップアップ研修
- ・ 認知症ケアパスの普及促進
- ・ 認知症当事者による本人発信支援

② 認知症の人と家族の支援

- ・ 認知症地域支援推進員の配置
- ・ 認知症初期集中支援の充実
- ・ 認知症初期集中チーム検討委員会の開催
- ・ 認知症の人と家族への一体的支援事業

③ 認知症の人を支えるネットワークの拡充

- ・ 気軽に集い交流する場づくりの推進
- ・ チームオレンジの形成
- ・ 認知症の人や家族を支援する
- ・ SOSネットワークの体制の充実
- ・ 希望をかなえるヘルプカードの利用促進

④ 若年性認知症の人への支援

気軽に集い交流する場づくりの推進

認知症カフェ

- 認知症の人や家族・地域住民が住み慣れた地域の中で気軽に集え、専門職に相談できる場として認知症カフェを市内32か所開設。(令和7年1月末時点)
- 令和元年度より全国的にも認知症カフェの推進に取り組んでおられる矢吹氏を講師にお招きして、地域を変える認知症カフェ研修会を毎年開催。



参加者の様子

- 居心地がよく、ミニ講和も楽しみにしている。
- 認知症について安心して話し合うことができる。

認知症の人を支えるネットワークの拡充

SOSネットワークづくり

- 認知症による行方不明者を早期に発見できる仕組みをつくるために、令和5年度から「認知症になっても安心して外出できる街づくりを考える会」を開催
- 警察や消防、認知症専門医、民生員、ケアマネジャー、認知症と家族の会などに加え、認知症の本人にも参加していただき意見をいただいている。



施策の方向性

- 地域で協力して、行方不明になった人を検索するための情報共有ツールの導入に向けて取り組んでいる

主な意見

検索機関

- GPSなどの機器の導入が有効

認知症の本人

- GPSもいいかもしれないけど、GPSと同じ靴しか履けず、認知症になったらおしゃべりもできないのかなと思うと何か悲しい
- 何とか地域で支え合っていけないかな

新しい認知症観を浸透させる取組

現状・課題

- 様々な取組に認知症の本人やその家族に参加し意見をいただくことで、効果を実感している。
- 一方で、高知市の認知症施策推進計画には、まだ、新しい認知症観が反映させきれてない。



方向性

- 国の認知症施策推進計画に係る策定準備支援事業を活用し、さらに認知症の本人やその家族の声を聞く機会をつくり、新しい認知症観を次の認知症施策推進計画に反映させていく。

認知症施策推進計画に係る策定準備支援事業活用の内容

- ◆ 認知症の人や家族等の意見を施策に反映させるための会議開催
 - ・「認知症になっても安心して暮らし続けられる街づくりを考える会」を開催
- ◆ 認知症の本人の発信支援のための事業
 - ・認知症の本人や家族が発信する機会の創出や本人や家族の視点に立った啓発ツールの製作
- ◆ 認知症の人や家族等の意見を丁寧に聞く場の設置
 - ・認知症カフェ・ミーティングセンター等の普及促進など

認知症の人や家族等の意見を施策に反映させるための会議

認知症になっても安心して暮らし続けられる街づくりを考える会

- 新しい認知症観を浸透させるための現状課題と今後の取組について、行政だけでなく、認知症の本人を含む様々な方に参加していただき協議している。

参加者

認知症の本人，認知症の人と家族の会，認知症専門医，若年性認知症支援コーディネーター，学識者，民生委員児童委員協議会，居宅介護支援事業所協議会など



得られた主な意見

- ◆ 認知症の本人やその家族の意見を丁寧に聞き、施策へ反映させることが大事
- ◆ 予防的な観点も必要だが、診断後の不安を軽減するような情報発信や取組が大事
- ◆ 認知症に対して否定・混乱期にある方もいるため、当事者同士だからこそ共感できるピアサポートのような支援体制も必要
- ◆ 認知症になっても社会参加できる場や安心して集える場が必要。現状の認知症カフェは、当事者が参加しやすい場にはなっていないところもあるため、目的や機能について再確認が必要
- ◆ 認知症の本人とその家族で求めている情報が違う場合がある

今後の取組（予定）

今年度

- 認知症診断直後の方や認知症に対して不安を感じている方が必要とする支援やサービスにつながるように、認知症の本人の意見を反映させた認知症ケアパスを見直す。
- 新しい認知症観を広く市民に浸透させるため、ヘルプカードやポスターなど、認知症の本人の意見を反映させた普及啓発ツールを作成する。
- 地域の認知症カフェの立ち上げ支援や認知症の本人が情報発信する機会をつくる。

来年度以降

- 「認知症になっても安心して暮らし続けられる街づくりを考える会」を引き続き開催し、新しい認知症観を浸透させるため方法等について意見交換する。
- 今年度作成する啓発ツールを活用し、新しい認知症観の普及啓発を強化する。
- ピアサポートの場や認知症カフェを創出する。
- 認知症の本人やその家族が情報発信する機会をつくる。
- 認知症施策推進計画に、新しい認知症観の考え方や認知症の本人の意見を踏まえた施策を反映させる。

認知症の本人の声を聞く工夫

高知市が行っている工夫

- フラットな関係をきずく。
- 様々な活動を共にする。
- 納得いくまで話し合う。
- 共に過ごす中で気づいた課題を一緒に解決する。



高知市の認知症施策の取組

ご清聴ありがとうございました。



高知市健康福祉部基幹型地域包括支援センター